

ワーケーション実証費用助成額に対して市内消費額は約3倍の消費効果が判明

～令和4年度ワーケーション実証費用助成金 最終報告（4月～3月）～

富良野市は、第6次富良野市総合計画に基づく関係人口創出を図る施策、令和4年度「ワーケーション実証費用助成金」の予算執行額に達したことから、今年度の助成制度は終了しました。終了に伴い4月～3月の実証結果が判明したことからお知らせします。

当該期間中のワーケーション実証者63名に対して支払った助成額（1,837千円）に対して、市内消費額（5,824千円）で約3倍の消費効果、市内外消費額（7,153千円）で約3.9倍の消費効果となり、本市でのワーケーション実証は市内及び周辺地域への消費効果が高いことが判明しました。

ワーケーション実証費用助成金の制度内容

市外の社員等【企業・団体の役員・社員（職員）又はフリーランス・個人事業主】（日本国内に住所を有し、居住実態がある者）が、本市の宿泊施設に4泊以上滞在し、テレワークや研修などの仕事と余暇を両立したワーケーションを実証した場合、市内の宿泊費及びレンタカー利用料の一部を助成。

ワーケーション実証費用助成金の主な結果（令和4年4月～令和5年3月）

■実証者の8割が会社員、2割が個人事業主

企業のテレワークが在宅勤務のほか、働く場所を選ばないロケーションフリーワークの広がりなどを背景に会社員の利用が拡大。

■実証者の居住地は首都圏からが7割を超え、東京都からの実証者が最多

東京都からが31名、続いて神奈川県10名、埼玉県が5名。

■宿泊総日数319泊、一人平均5.06泊、8割が同一宿泊施設に滞在

平均宿泊日数5.06泊、8割が同一宿泊施設に滞在。2割が宿泊施設の比較、滞在環境の変化を求めると複数施設に滞在。

■宿泊総支払額3,210,000円、一人平均51,000円。ホテル滞在に限らず実証者のニーズに応じて様々な宿泊施設に滞在

一人当たりの宿泊支払額は51,000円で、4割がホテルを利用していたが、家族の帯同がある実証者や特に女性の実証者は、外食コストや健康面から調理ができるキッチン付きのコンドミニアムや民泊等のニーズが高かった。また、単身の若年実証者を中心に安価で市街地に立地するホステルの利用も目立った。グループで貸別荘を1棟借りるケースもあった。

■市内の消費額5,824,000円、市外の消費額1,329,300円、市内外の消費合計額7,153,300円

一人当たりの市内消費平均額93,000円、市外消費平均額22,000円、市内外消費平均額114,000円。主な市内消費は宿泊、飲食、お土産、アクティビティ、主な市外消費はレンタカー、ガソリン、飲食、アクティビティ、温泉、お土産が占める。

■5割がレンタカー利用、同乗者含めると9割が利用

29名がレンタカー利用。同乗者を含めると9割が滞在中にレンタカー（自家用車含む）で移動するなど二次交通に寄与。

■3割が市からモニター貸与

19名が市からモニター貸与により、リモートワーク業務の効率化・生産性向上に寄与。利用者からは当該サービスに高い評価。

■今回の結果を通じて

令和4年度は、コロナ禍による国や都道府県からの圏外移動の自粛要請が無かったことや企業のテレワークも働く場所を選ばないロケーションフリーワークの浸透などを背景に当該助成金を利用する実証者は堅調に推移しました。年度途中で予算執行率が100%に達する見込みから12月上旬以降、新規受付を終了しましたが、2月にワーク&スキーワーケーションで10名が実証するなど、夏季に限らず冬季の需要もあることが判明しました。また、実証者のニーズに応じた多様な宿泊施設の強みを生かし様々な宿泊施設を利用されました。なお、平均5泊の宿泊に伴い、市内及び市内外の消費額は一定の効果がありました。こうした効果に加え、実証をきっかけに「ふるさと納税」で寄附した方も（7名・12万円）おり間接的な効果もありました。引き続き実証者の再訪する機会の創出や交流会開催など「富良野ファン」づくりに向けた関係性の継続に努めていきたいと思っております。



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

富良野市総務部企画振興課企画振興係 担当：松野 TEL：0167-39-2304 MAIL：matsuno.kengo@city.furano.hokkaido.jp